

MRテキスト2018

医薬品情報

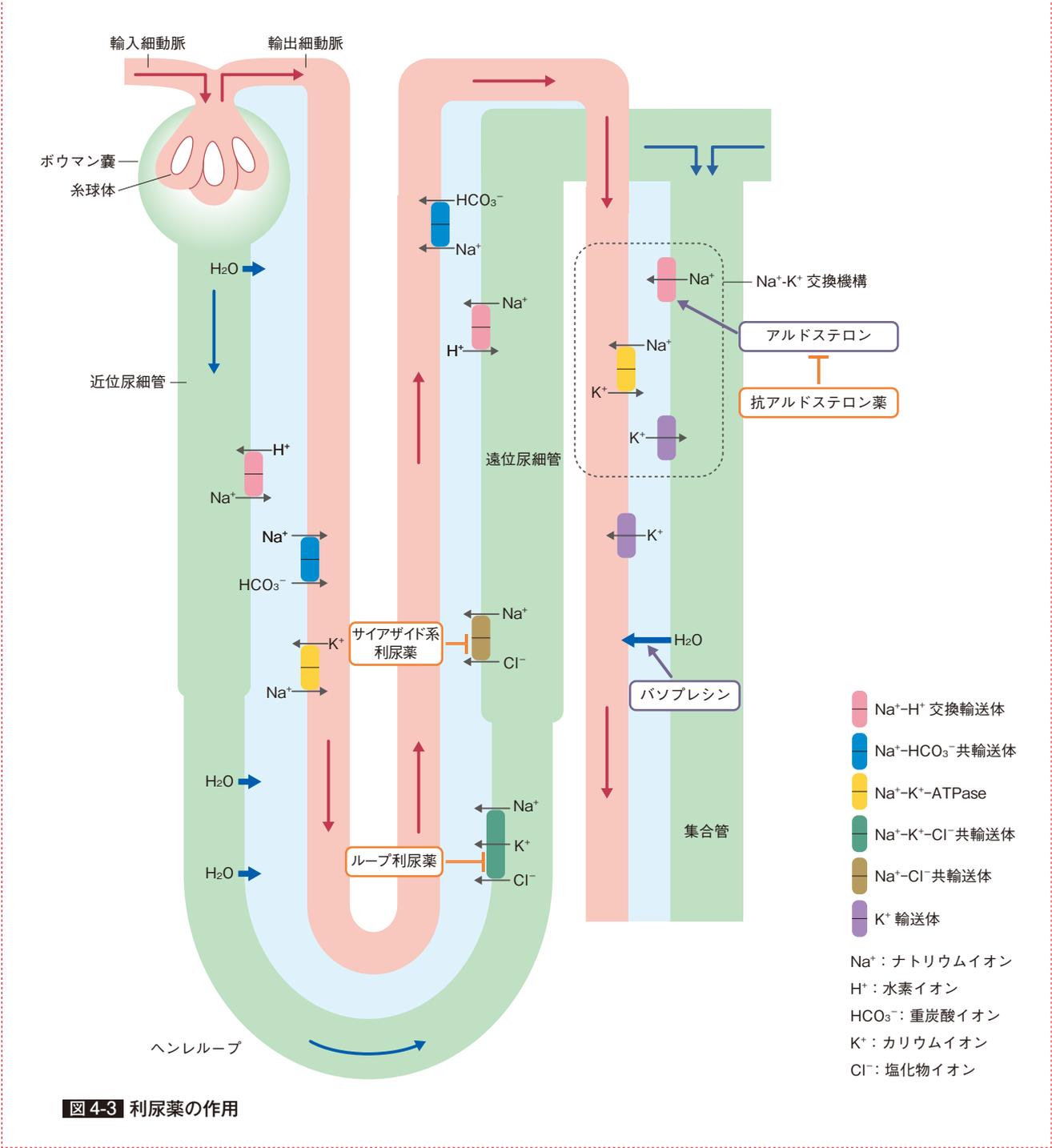
正誤表

(2018年4月)

頁	該当箇所	誤	正
9	右の下から14行目	一方、医療関係者はこれらの情報を活用して医薬品の適正な使用の確保に努めなければならない。患者に対して適切に医薬品を使用することができるよう医薬品情報を提供する義務をもつ。	一方、医療関係者は製薬企業などが行う医薬品の適正な使用のための情報収集活動に協力するよう努めなければならない。
23	右の上から1行目、3行目	調整	調製
71	左の下から9行目	睡眠薬	睡眠改善薬
	左の下から2行目	カフェインの促進作用は中枢作用、	カフェインによる中枢神経の興奮作用は中枢作用、
80	右の上から9行目	A 酵素阻害薬の作用機序	A 酵素作用薬の作用機序
	右の下から5行目	B 代表的な酵素阻害薬	B 代表的な酵素作用薬
83	左の上から1行目	B 代表的なトランスポーター作用薬	B 代表的なトランスポーター阻害薬
97	左の上から2行目	利尿薬はサイアザイド系利尿薬、ループ利尿薬、カリウム保持性利尿薬、バソプレシン受容体阻害薬の4つに大きく分類される。	利尿薬はサイアザイド系利尿薬、ループ利尿薬、カリウム保持性利尿薬に大きく分類される。
	図4-3	バソプレシン受容体阻害薬	削除。→訂正図表一覧参照
98	右の上から14行目	4. バソプレシン受容体阻害薬 バソプレシン受容体阻害薬は集合管にてバソプレシンV ₂ 受容体に拮抗し、バソプレシンによる集合管内の水の透過性の上昇を抑制することで、水の再吸収を抑制する。バソプレシンは水分子を選択的に透過させるアクアポリンを介した抗利尿作用を有するため、バソプレシン受容体阻害薬は電解質やほかの物質の排泄増加を伴わずに利尿作用を示すことが特徴である。	削除
99	左の下から9行目	バソプレシン受容体阻害薬は妊婦および授乳中の患者に対しては禁忌である。	削除
100	右の下から1行目	バソプレシン受容体阻害薬は過剰な水利尿に伴う脱水症状、高ナトリウム血症などの副作用が現れるおそれがあるため注意が必要である。なお、バソプレシン受容体阻害薬の投与開始は入院下で行い、適切な水分補給の必要性について指導することが求められている。	削除
104	右の上から1行目	また、SU薬、速効型インスリン分泌促進薬、DPP-4阻害薬、ビグアナイド薬、チアゾリジン薬は、	また、SU薬、速効型インスリン分泌促進薬、ビグアナイド薬、チアゾリジン薬は、
113	右の下から1行目	非ステロイド性抗消炎鎮痛薬	非ステロイド性消炎鎮痛薬
130	右の上から2行目、4行目、7行目	製造販売後臨床試験	製造販売後に行う臨床試験
148	左の下から8行目	特許期間満了前でも承認、販売でき、先発医薬品と効能・効果も同一である。	特許期間満了前でも承認、販売できる。
175	表6-5	1～15℃以下の場所	1～15℃の場所

訂正図表一覧

キリトリ線



- Na⁺-H⁺ 交換輸送体
 - Na⁺-HCO₃⁻ 共輸送体
 - Na⁺-K⁺-ATPase
 - Na⁺-K⁺-Cl⁻ 共輸送体
 - Na⁺-Cl⁻ 共輸送体
 - K⁺ 輸送体
- Na⁺: ナトリウムイオン
H⁺: 水素イオン
HCO₃⁻: 重炭酸イオン
K⁺: カリウムイオン
Cl⁻: 塩化物イオン